

# FAIR PRIDE ATHLETE INTERVIEW

4人のトップアスリートが語る  
アンチ・ドーピングへの意思

# なぜ アンチ・ ドーピング なののか？

そう聞かれたら、  
あなたは何と  
答えますか？

ドーピングは「アンフェア」「健康を害する」「反社会的行為」「スポーツの価値を損なう」などの理由から世界共通のルールのもとで禁止され、私たちは当たり前のように「ドーピングはいけない」と捉える価値観を持っています。

なぜ、私たちは「ドーピングはいけない」と考えるのでしょうか。

あなたはその理由を答えられますか？

本冊子では、4名のアスリートに聞いた「ドーピングをしない理由」をご紹介します。

彼らの思いに触れて、改めてアンチ・ドーピングについて考えてみませんか。

# トップアスリート4人に「しない理由」を聞きました!

「なぜ、ドーピングをしないのか?」

年齢、競技、性別の異なる4人のトップアスリートに問いかけてみました。

4人それぞれの「しない」理由から、アスリートが果たすべき役割や

現在のスポーツが大切にしている価値観が見えてきました。

01

MATSUDA TAKESHI



## 松田丈志

4歳から水泳をはじめ、競泳日本代表としてアテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロのオリンピック4大会に出場し合計4つのメダルを獲得。引退後はスポーツジャーナリストやJADAアスリート委員など幅広く活躍中。

02

TASHIRO MIKU



## 田代未来

小学2年生で柔道をはじめ。高校1年生の時に出場した世界ジュニア選手権大会で優勝。リオデジャネイロオリンピックで女子63kg級に出場し5位となる。リオ・東京とオリンピック2大会連続で代表に選出。

03

TAKAKUWA SAKI



## 高桑早生

小学6年生で骨肉腫を発症し、左足ヒザ下を切断する。高校時代に本格的に陸上競技をはじめ、20歳でロンドンパラリンピックに初出場。リオデジャネイロパラリンピックでは、女子走り幅跳び(T44)で5位となる。

04

SUETSUGU SHINGO



## 末續慎吾

陸上短距離界のエースとして数々の世界大会に出場。2003年の世界陸上パリ大会男子200mで銅メダル、北京オリンピック男子4×100mで銀メダルを獲得。200mの日本記録保持者である。2015年よりプロアスリートとして多方面に渡り活躍中。

# 松田丈志

(競泳)

アテネ、北京、ロンドン、リオデジャネイロとオリンピックに4大会連続出場し、4つのメダルを獲得。現在、JADAアスリート委員としてアンチ・ドーピング活動に携わる松田さんは、アンチ・ドーピングをどう捉えているのでしょうか。

## 結果的に自分の評価を下げることにつながるから

MATSUDA TAKESHI

### 子ども心にとがっかりした チャンピオンのドーピング

広島で開催されたアジア大会で、中国の競泳選手が大勢ドーピングで違反となりました。失格になったチャンピオンもいて、子どもながらに「何だそれ」とがっかりしたことを覚えています。

負けた選手はどんな気持ちだろうと思った記憶もあるし、ドーピングの発覚によって素晴らしい競技のワンシーンが全て覆ってしまった印象を受け、自分の大好きなスポーツが汚されているというか、そんな気持ちがありましたね。

### スポーツにはルールがある。 「ドーピングをしない」 というのもその一つ

スポーツがルールの上に成り立っているように、ドーピングをしないことも同じように重要だと思います。自分がフェアに戦って結果を出しているのに、隣で泳ぐアスリートがドーピングをして速くなっていたら、それは自分の気持ちとしても許せません。それにドーピングで一度でも自

らの限界を超えてしまったら、それは脳も身体も覚えてしまうので、やはりドーピングで能力を上げたアスリートは有利になると思います。だからこそ、一回でもステロイドとか筋肉増強系のドーピングに手を出したアスリートは、もうずっと競技に参加できなくても良いくらいだと思います。

アスリート目線でいえば、検査や居場所情報を提出することは大変なこと。ですが競泳界では、代表選手に選ばれたらほとんどがその義務を負う対象になるので、アンチ・ドーピングのルールに従うのは当たり前、という空気があり、自分も当然のこととして受け止めていました。自分たちが好きな競技を守る上でも、やはりアンチ・ドーピング活動に協力する必要があると実感しています。

### アンチ・ドーピングは自己責任

ドーピングをしない一番の理由は、ドーピングをすると「結果的に自分の評価を下げることにつながる」からです。自己ベストを更新したとか、優勝したということは、自分にとっても喜びだし応援してくれる周りの人にも感動を与えます。

そういった積み重ねの全てを汚して崩してしまうのが、ドーピングだと思います。やはり競技の純度や潔白性を守ることは大切ですし、そもそも自分の人生の時間とエネルギーをかけてきた努力を、そんなことでムダにしてしまうのは本当にもったいないですよ。

理想は、ドーピングのない世界をつくること。そのために今自分が出来ることを、精一杯続けていこうと思います。



松田丈志

## 田代未来 (柔道)

柔道女子63kg級でリオデジャネイロオリンピックに出場。グランドスラムやワールドマスターズでは数々の優勝経験を持つアスリート。活躍を続ける田代さんに、現役アスリートの立場からドーピングをしない理由について語っていただきました。

## 周りの人に支えられ、自分の力で強くなったことを証明したいから

TASHIRO MIKU

02

### 柔道は私の人生そのもの

柔道を始めた頃は、みんなに会えるから楽しい、という思いで道場に通っていたのですが、今の自分にとって柔道とは何だろうと考えると、自分の人生そのものだと思うことが多くて。目標だったり夢だったり、こうなりたい、こうありたいという自分を見出すことが出来ました。柔道を通じてたくさんの人に出会って、色んなことを学んで、何よりもその人たちからたくさん助けられて今も自分は柔道ができるんだと感じています。

### 人のことを考えられる人間性は勝つことと同じくらい重要

私は、オリンピックで一番になりたいという目標に向かって進んでいます。大きな目標に向かっていく過程では、色々な不安やプレッシャーを感じるがありますが、そういう時にブレずに進んでいければ、多くのことが吸収できるのかなと思っています。だから、ブレない人間になりたい。というのも、幼い頃から同じ道場に通ってずっと一緒に練習をしていた先輩がいて、その人が柔道に対してブレない心を持っていて、競技以外でも人への気配りができて。柔道でも強いし、人としても強いし優しい。歳を重ねるにつれて、だから強いんだな、こういう先輩になりたいなと思います。

自分のことだけでなく人のことも考えられるような人間性は、勝つことと同じくらい重要だと思います。私も憧れの先輩方のようになれているかは分かりませんが、今のジュニアたちに対してそういう気持ちを抱かせる選手になりたいです。

### ドーピングをしない理由

自分が柔道選手としてだけでなく、人間としてもダメになるのであれば、ドーピングは必要ないです。絶対に勝てるっていうものがあるのなら、それこそドラえもんに頼みたいなと思いますが、それは自分のプライドがあるし、これまでのことを全て台無しにすることと同じだと思います。だからドーピングに頼って勝ちたいとは思いませんし、意味が全くないと思います。負けることよりも、禁止物質を口にしてしまう方が怖いですね。

私は色々なことを乗り越えて、自分の力、そして周りの方々の力をもらいながらここまで来たんだ、ということを証明したいです。だからドーピングはしません。私にとって検査を受けるなど、アンチ・ドーピング活動に協力することがそれを証明する手段だと思っています。

田代未来



高桑早生  
(パラ陸上)

03

## してはいけないものだから

TAKAKAWA SAKI

100m、200m、走り幅跳びの日本代表として、ロンドン、リオデジャネイロのパラリンピックに出場。現役アスリートとして走り続ける高桑さんは、アンチ・ドーピングとどう向き合っているのでしょうか？

## ドーピングをしない理由

率直に言うと、してはいけないと教わってきているからです。日本では特に「ドーピングはいけない」とされ、その上でなぜいけないのかという理由が伝えられます。そのメッセージが強烈的なので、「してはいけないものはしない」という気持ちが一番強い。もちろんその裏には、不平等さが生まれてしまうことや、スポーツとしてどうなのか、という大義名分のようなものがあると理解していることが前提です。

私はクリーンな状態というのは、武器である自分自身が素材だけの正しい状態であることだと思っています。クリーンでいたいからドーピングはしないし、本来のスポーツの意義に立ち返った時にそこに差が出来るようになるのであれば、してはいけないのかなと思います。

平等なラインで競うことが  
スポーツの価値

陸上競技は走る、投げる、飛ぶという、みんなができる動きを極限まで突き詰めるスポーツで、それが競技の魅

力だと思っています。だからこそ武器である自分自身というのは、正しいものでなければならない。その原始的な動きを自分が突き詰めていき、自分の正しい武器で戦う。そうやって平等を競えるのが陸上競技であり、スポーツの根底だと思っています。そして、その平等なラインで競うことでスポーツの価値が生まれ、人に感動を与えられると思います。私自身もそんなスポーツに感動をもらってきた一人なので、自分の行動で人に感動を与えたいです。

アスリートのクリーンを  
証明するアンチ・ドーピング

アンチ・ドーピングのルールによって、アスリートは一般の方が思っている以上に日常生活に気を遣います。中でもパラ競技の場合は常備薬があるアスリートが多いので、自分の生命維持に関する薬に禁止物質が入っている場合もあり、特に注意する必要があります。

だけどアンチ・ドーピングは自分がクリーンであることを証明する、アスリートにしかない特別な義務だと思っています。だから私はすごく面白いと感じるし、本当にアスリートのことを思ってくれる人がいなかったら、アンチ・ドーピングなんて考えも生まれていないんじゃないかと思っています。アスリートとしてスポーツの価値を保つためにも、アンチ・ドーピングの意識は常に持つておくことが必要だと実感しています。



Saki  
Takahawa  
100. LJ

日本代表として、数々の世界大会に出場。北京オリンピック男子4×100mリレー銀メダリスト。200m日本記録保持者。他国の選手のドーピング違反による失格で銀メダルへの繰り上がりを経験した末續さんが語る「しない理由」とは？

## 自分に対して 勝敗がつかないから

SUETSUGU SHINGO

04

### 走ることで人生を構築し、 自分自身を表現してきた

なぜ今も走り続けているのかというと、単純に好きだし、走ることで人生を構築してきているからです。なぜ走り続ける必要があるのかというと、今、自分ができる表現の中で、社会や、自分がこの空間の中で求められていること、求めることを表現する手段として、走っているという感じ。特にスポーツをやっているという認識はあんまりなくて。社会は循環していて、この世で生きていくためのものを社会や世界から提供してもらっていて、そのかわりこちらは恩恵を返さないといけない。恩恵の返し方の一つに仕事があって、芸能人や映画監督、普通の会社員もそうだし、僕にとってはそれが走ることだったんです。

### ドーピングをしない理由

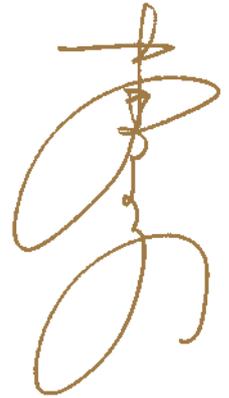
自分に対して勝敗がつかないからです。ドーピングをしたら、自分自身は成功したのか、思っていた所にいったのか、という自分の挑戦に対する答えが見えないですね。そう考えると、自分にとってドーピングは意味がないものなんです。

スポーツの中で人工的なものを使ってまでパフォーマンスを高めたいなら、ロボットにやらせればいって話になりますよね。疑問というより不思議なんです。なぜスポーツにドーピングを持ち込むのかが分からない。だからダメというより、聞きたいんですね。なんで？という純粋な疑問です。

### 自分自身で考えて 理由を見つけることが大切

ドーピングはなくならないんです。ダメ、ダメってずっと言ってるだけで、アスリートが個人的に悔しいだけに留まってしまっています。そこで留まっているから、どこまでもドーピングってなくならないんです。

ドーピングを減らすためには、ただ断絶して「ダメ」と言い続けるのではなく、ドーピングをする理由、しない理由に光を当てるべきです。引退した方も現役の方も、更生して世の中に出てきた人も、する・しないに関わらず、その状況の中で戦い続けたことを伝えていくべきです。美学や哲学を話す人がいないから、相対的なものが生まれない。だから、ドーピングと戦わない、戦えないんだと思います。アスリートが「自分はどうするのか」を考えて確かな軸を持ち、それを語る機会がもっと必要だと思います。



# 4名のアスリートの言葉は、 あなたにどのように届きましたか。

アンチ・ドーピングは、たんに  
「不正をする人を見つけ、不当な勝利を防ぐ」ための活動ではありません。

アンチ・ドーピングは、スポーツを成り立たせている  
「みんながフェアであること」を守るためにあります。  
全員がフェアでなければ、そもそもスポーツは成り立たない。  
すべての人が、スポーツに参加し、公平に競い合うことができる。  
その権利を守るために、アンチ・ドーピング活動があります。

そして、もうひとつ。アンチ・ドーピングは、  
「スポーツが生み出す価値」を守るためにあります。  
挑戦する心、相手へのリスペクト、そこから生まれる友情、  
そんな、社会にとっても大切な価値を守るためにあります。

フェアであることを守り、スポーツの価値を守る。  
そのいちばん中心となるのが、アスリートとサポートスタッフのみなさんです。  
みなさんが、フェアであることをつねに誇りに思い、  
その大切さを、世の中に示すこと。  
それこそが、スポーツの発展を支え、より良い社会をつくる力になります。

フェアであることの誇りを胸に、すばらしいスポーツの価値を、  
ともに広めていきましょう。



勝利を超える価値がある

スポーツのフェアネスが社会のフェアネスを支えるために。

---

▶ アスリートインタビュー  
WEBサイト



▶ JADA  
WEBサイト

